

チジューカ 2012 年

G.R.E.S. ウニードス・ダ・チジューカ 2012 年

“荒野の王ルイスの戴冠のため、全ての王族が通りに勢ぞろいした日”

「私は、こんなサンフォーナ(アコーディオン)奏者として思い出される存在でいたい。同胞と荒野を愛し、歌にした、鳥、動物、神父、山賊、難民、勇者、臆病者、愛を歌った歌手として。」ルイス・ゴンザーガ

サンフォーナを弾いてくれ、もう祭りが始まるから！
蛇腹を伸び縮みさせてくれ、お供ももうやってくるから
この大通りは、荒野を持ち込むべき道筋
ここにいる誰もが、その瞬間を忘れることがないだろう

思い出すのは、ある星空の夜、荒野に一人の王が生まれたこと
大いにバイヤオンを広めた権威者となった者
歩みながら同胞の物語を歌いながら
100年後、あらためて戴冠することとなる

我々は、王たちと女王たちを招き、紹介する、少年期から
ルイス・ゴンザーガ、通称ルーアが、既に巨星としての宿命を負っていたことを
微笑みと喜びを表して、歌い、レッスンを行っていたことを
それでも、心の奥底に望郷の念をしまっていたことを

紳士淑女のみなさん、この旅の道程には
遠くの地が含まれる。そこでは勇気ある人々が
干ばつと土埃に立ち向かい、泥から人生を掴み取る
大地を耕し、レースを織る。日の出から日の入りまで働きづめで

市場には、屋台が建つ、見た目に美しい
この世界に存在するものは全て、そこに売られている
北東部の文化を形作る、色、香り、味
厳しい暮らしの中にあり得る幸せは全てここで買われる

王家の輸送隊に続いて、道を辿る
ロバの背に揺られ、陶芸家ヴィタリーノの地に至る
陶製の像の巨匠、皆が真似をした

“荒野の王ルイスの戴冠のため、全ての王族が通りに勢ぞろいした日”

人生を、日々の物事を語る人形

しかしながら、荒野を知るには勇気が要る
カアチングの茂みを抜け、旅は続く
神の恵みを乞い、神妙に祈り、敬虔になり、巡礼者となる
そして、ミサ・ド・バケイロ(馬乗りの集会)で全員が集まる

皆さん、女王様方、王様方、バイヤオンの王が宣言する
長き祈りを経て、勇気が育つのだと
河のほとりをたどる、ランピアオンとなる、コリスコとなる
そしてサンフランシスコの谷の美しさを知る

辺境を歩き、河から出でる命を見る
サンフランシスコ川は大きくなる、砂州から染み出た水によって
茎、果実、牛、小鳥のさえずり
王の郷愁を歌う、少年時代から

牛の群れを追い、馬乗りよ！山賊が警備につく
サンフランシスコ川から流れる水は大地を抱く腕
幸運をもたらすカハンカスにあたるまで南下する
広がるしかめ面に、死の恐怖も忘れる

「さあ行こう」夜が来る。バイヤオンの時間だ
もう祭りが始まったから。「アハイアー」がある。ケンタオンがある
植える時期にはサン・ジョゼ、収穫する時期にはサン・ジョアン
クワドリーリヤの準備はできている。これからフォホー、とバイヤオンが始まる

サンフォーナが人々を盛り上げる。全員が集まる
王の集会に、蛇腹から生じる音に合わせて遊ぶ
ブンバ・メウ・ボイ、マラカトゥ、フレーボ、パゴージ、ヘイザード
皆が盛り上がるのに必要なものは全て

荒野を歌って、ゴンザーガは王となった
合わせて歌った歌は、今や法
広場の詩、勇敢さと勇気を規定する
彼のレッスンはラジオを得て、そのメッセージが浸透した

チジュウカ 2012 年

通りがかる各駅で、彼の人生が語られる
喜びと民族性を広めながら、本日、通りを支配する
そしてチジュウカは遊び、全世界に向かって語る
この空には、星になったゴンザーガが幸せに休むと

イザベウ・アゼベード、アナ・パウラ・トリンダーヂ、シモーネ・マルチンス、パウロ・バホス

“荒野の王ルイスの戴冠のため、全ての王族が通りに勢ぞろいした日”

チジューカ 2012 年

(サンバ・エンヘッド)

作: バチーニョ、ジョゼマール・マンフレデーニ、ジョルジ・カラード、シーラス・アウグスト

その素晴らしき旅路の中で
「ルーア(月)」が輝き、着想を示す
私は、不思議な王族を見る
荒野の美しさとともに！
「降り注げ、太陽」私が見る光景は
遠くの地に輝く
なんと、まぶしい光景、でもうろたえるな！
ムイエ・ヘンダーはレースを織る女
そして市場の味付け
泥、主、創造！

サボテン、サバンナの花
「少女のショッチ」がある、その大騒ぎの最中
ああ、神父様、恵み深き聖人
誓いは守る、私を信仰の道に導いてください

各駅に、「悲しい別れ」がある
山賊に見た、強い生き方を
サンフランシスコ川の川辺で悪を振り払った
民俗習慣の中に文化的ルーツを織り込んで
さあ行こう、もう夜が来る「懐かしい私のサン・ジョアン」
「老ジャヌアーリオを敬え、唯一無二、彼のひたむきな、ベース・ポタンが 8 つのアコーディオンを」
「ある小夜曲で」私は幸せに歌う
足で丘を踏み、月明かりに向かって祝う
チジューカ、使いの光が知らせる
喧噪を運ぶ便に伴い、今日は戴冠式がある！

私の感動が君を招待する
歌え、チジューカ、祝いに来い
「白い翼にまで」クジャクは出会う
「バイヤオンの王」に冠を授けるべく

“荒野の王ルイスの戴冠のため、全ての王族が通りに勢ぞろいした日”